

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

小才角

第2号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月1日（火）14:00～16:00、小才角憩いの家にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。

【地区としての復興の方向性】

- 若い人にリーダーシップを取ってもらいたい！
- ・若い人々、みんなで盛り立てて！
- ・なすのぶひとさん、かしはらりょうさんにリーダーシップをとって欲しい。
（応援してほしい）
- ・40代、50代の意見をしっかり聞いた方がいい



若い人が参加してくれる夜に会を開催してほしい。

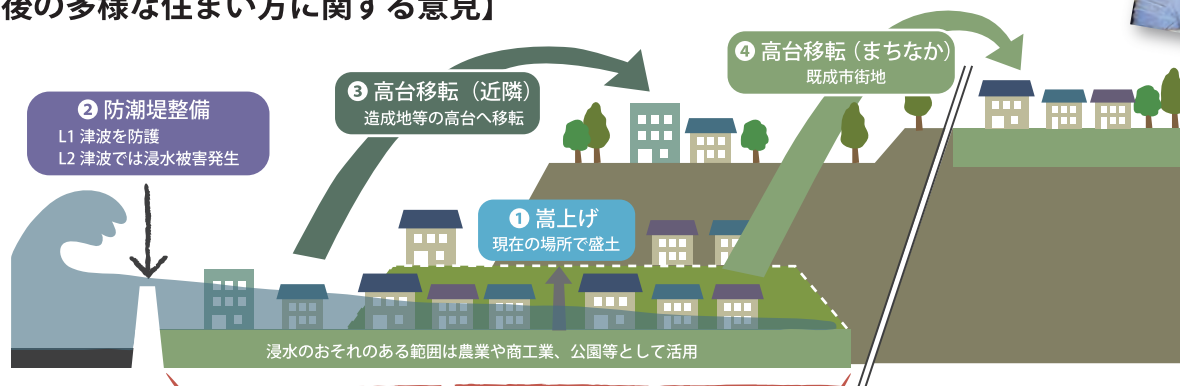
- 高台で暮らしたい
- 地域の人々と一緒にいたい
- ・みんなで一緒にいることが大事
→命を守るための避難できるところが必要
- 漁業が続けられるまち
- ・漁師は続けていきたい。
- ・40代1人、50代1人、70代ばかり。10年後にはどうなるだろう。
- ・漁師さんはほとんど残らないかも知れない。

残したいもの

- | | |
|-------------------|--------|
| ●施設 | ●自然 |
| ・お宮や神社
（高台に移動） | ・きれいな川 |
| ・COSA | ●文化 |
| ・郵便局 | ・お祭り |
| ・港 | ・モルック |
| ・憩いの場 | ・輪投げ |
| ・移動販売 | |
| ・畑 | |
| ・さんご（像） | |



【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討
※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

1 嵩上げ

・今いるところに住みたい

- ・老人ホーム
- ・唐岩への道
- ・神社を高台へ

2 防潮堤整備

3 高台移転（近隣）

- ・事前に高台へ移転したい
- ・地区内の高台で暮らす

- ・高台に上がるのが大変
- ・10年後さらに人も減る

4 高台移転（まちなか）

- ・地区の人で集まって公営住宅に入りたい

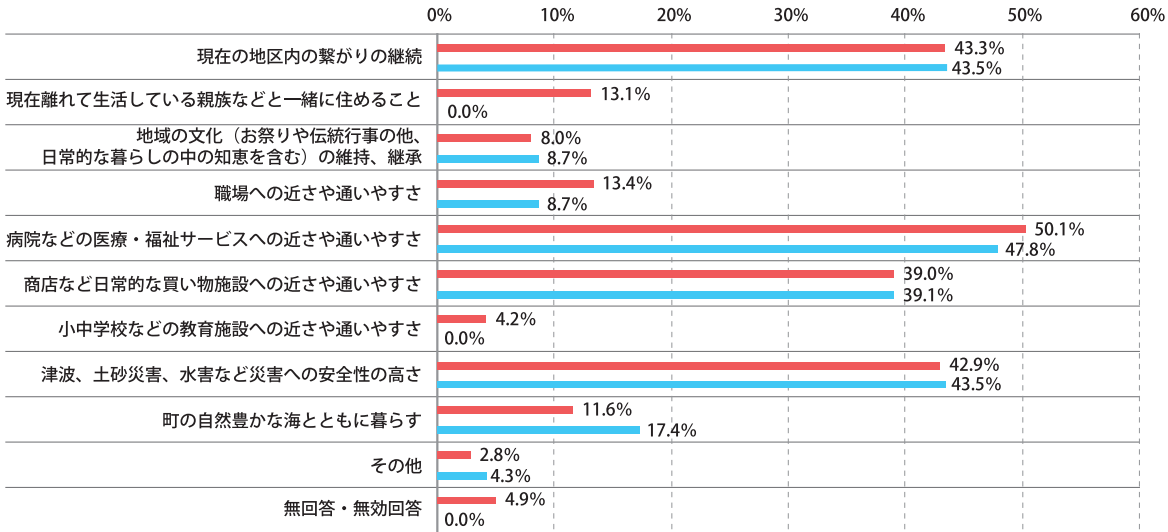
- ・高齢なので公営住宅の家賃や水道光熱費を払っていきけるか心配

- ・人口減少対策
- ・畑は趣味でやっている人がほとんどなので、復興させなくても良いのではないかな

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

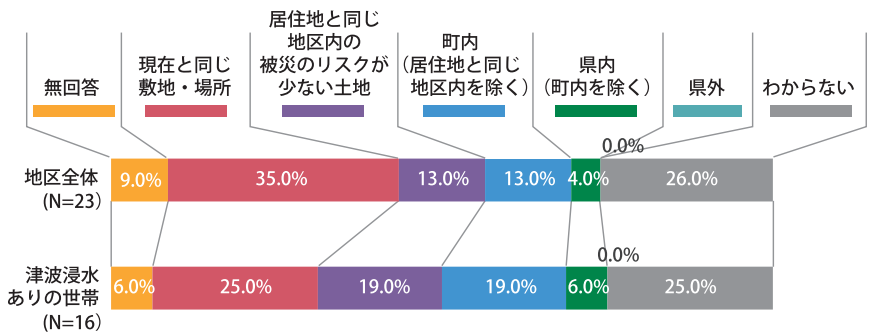
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



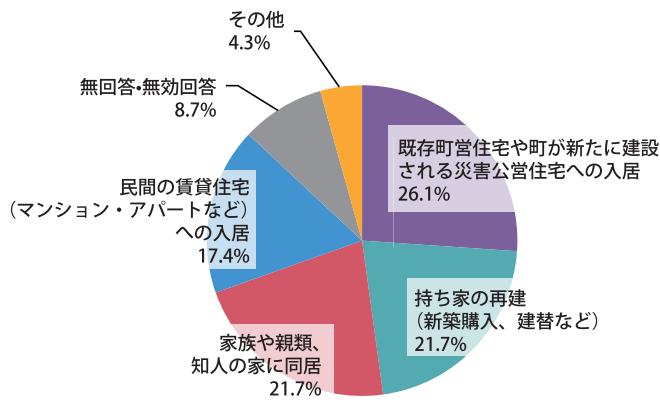
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。小才角地区では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 47.8% が最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」、「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」の 43.5% となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、小才角地区全体では「現在と同じ敷地・場所」が 35.0% と最も多く、次いで「わからない」が 26.0% となった。津波浸水の予想される世帯では「現在と同じ敷地・場所」と、「わからない」が 25.0% と最も多く、「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 19.0% となっている。

●復興の際の住まいの形態 (N=23)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 26.1% と最も高く、次いで「持ち家の再建」、「家族や親類、知人の家に同居」とがそれぞれ 21.7%、「民間の賃貸住宅への入居」が 17.4% となった。